医療最前線 >>>vol.58

川崎医科大学附属病院 放射線科（画像診断）

Report!

精度の高い画像診断で迅速かつ的確な治療を

全身の各領域を専門とする放射線科の医師が二四時間体制で対応。

「当科は単純X線検査、消化管造影検査、CT検査、MRI検査などあらゆる画像に対しての診断を行なっています。基本的に画像診断の専門家が二人以上で画像を読影し、診断をします。診断の難しい症例に関しては、毎朝のカンファレンスで症例を提示し、各スペシャリストの医師で話し合います。このような徹底したカンファレンスにより、精度の高い画像診断が可能になっています」と話すのは玉田勉教授。腹骨盤部の画像診断や泌尿生殖器のMRI診断などを専門とし、当科の柱としてチームを率いている。

かつてはフィルムで行なわれていた画像診断も近年は「PACS（パックス）」と呼ばれる医療用画像管理システムを用いたモニター診断が主流になった。以前に比べ画像が連続性を持ち、より立体的に把握できるようになったのがメリットだ。診断結果は、患者が受診した各科の医師の手元に報告書として届けられ、的確な治療方針を立てるために役立てられている。さらに胸部、肝・胆・膵、泌尿器など、全身の各領域を専門とする放射線科の医師が各診療科のカンファレンスに出席し、画像診断のアドバイスとともに、治療方針の決定などを行なっている。また、放射線科専門の当直も実施しており、救急外来からの相談にも二四時間体制で対応している。

画像データ＝患者さん。画像は一枚たりとも無駄にしない。

現在、当科ではCTやMRIなどの画像を見ながらカテーテル、穿刺（せんし）針を用いて施行する治療法「IVR」も手がけている。「IVRは外科的手術に比べて低侵襲性で、局所麻酔で行なうことが多いため患者さんへの負担が少なく、迅速かつ的確に治療できるのが特徴です。当科では各種がん治療、内臓動脈瘤などの血管病変、リザーバ留置術などの血管系IVRや組織生検などの非血管系IVRを行なっています」。

また今年八月には、前立腺がんの検出をより正確にサポートする生検装置を岡山県下で当院のみ導入。高解像度のMRI画像とリアルタイム3D超音波画像を融合させることで、前立腺がんが疑われる部位の組織を正確に捉えることが可能となり、適切な治療戦略に寄与している。

最後に放射線科の医師としての心得を玉田教授はこう話す。「画像を一枚たりとも無駄にしない。放射線科の医師にとって、画像データ＝患者さんです。ひとつでも多くの成果を上げ世界に向けて発信し、それを患者さんにフィードバックする。それが私たちの務めです」。現代医療に不可欠な画像診断やIVR、玉田教授の今後の取り組みが期待されている。

お問合せ
川崎医科大学附属病院
倉敷市松島577
☎086-462-1111
https://h.kawasaki-m.ac.jp/

■2018年10月25日号掲載
本文中の医学情報、写真は掲載当時のものです。

IVR（Interventional Radiology）は「画像下治療」とも呼ばれ、体への負担が少ないなどのメリットからさまざまな治療に用いられている。症例も年々増加しており、現在当科の年間症例数は350症例を超えるまでになった。

Diagnostic Radiology

放射線科専門当直により、24時間体制で救急からの相談に対応。各領域を専門とする放射線科の医師が集まるカンファレンスにおいて、日常臨床、救急およびIVRの症例について詳細な検討が行なわれる。

休日は家族と過ごすことが多いですね。息抜きはゴルフ、といってもあまり上手ではありません（笑）。北海道が好きで年に1回は旅行に出かけます。知床や釧路湿原など、雄大な自然に心癒やされています。

玉田 勉 教授
Tsutomu Tamada

■専門分野
腹骨盤部画像診断、泌尿生殖器のMRI診断

■認定医・専門医・指導医
日本医学放射線学会放射線診断専門医、肺がんCT検診認定医

CT検査（コンピューター断層撮影検査）やMRI検査（磁気共鳴画像検査）などの画像診断は、正確性を期すため、画像診断の専門家が2人以上で読影・診断を行なっている。